

日本写真学会・写真感光材料工業会主催

# 2017年度 PHOTONEXT 技術アカデミー

日本唯一最大スケールのプロと写真ビジネスのための展示会&セミナー『PHOTONEXT 2017』がパシフィコ横浜で開催されます。日本写真学会と写真感光材料工業会は、今年度も、最新デジタルカメラの技術動向や映像表現についての技術アカデミーを企画しました。

フォトビジネスに携わる皆様、企業・学術関係者、写真愛好家など幅広い皆様のご参加をお待ちいたしております。

主催：(一社)日本写真学会、写真感光材料工業会

後援：株式会社プロメディア

協力：(公社)日本写真協会、(一社)日本写真文化協会、(協)日本写真館協会、(一社)日本写真映像用品工業会、日本フォトイメージング協会

日時：2017年6月20日(火) 10:00~17:00(受付開始:9:30)

会場：パシフィコ横浜 展示ホール 2F 会議室 E204

〒220-0012 横浜市西区みなとみらい 1-1-1

TEL 045-221-2166(交通案内) / 045-221-2155(総合案内)

交通：みなとみらい線：みなとみらい駅下車 徒歩約3分

JR・市営地下鉄：桜木町駅下車 徒歩約12分

参加費：全セッション通し；6,000円、セッションⅠ；3,000円、セッションⅡ；4,000円

(要旨集合含む) \*参加費は当日会場でお支払いください。

定員：50人

申込方法：Web上のフォームからお申し込み下さい。

E-mail、FAXによる申込も可能です(氏名、所属、連絡先、会員有無を明記下さい)。

URL：<http://www.spstj.org> mail：[spstj@pht.t-kougei.ac.jp](mailto:spstj@pht.t-kougei.ac.jp) FAX：03-3299-5887

申込締切：2017年6月16日(金) \*定員になり次第締め切らせて頂きます。

## 【講演プログラム】

### 【セッションⅠ：最新デジタルカメラシステムの技術動向】

10:00~10:45 「新システムカメラ GFX の開発背景とそれを達成する技術の紹介および活用術」  
富士フイルム(株) 光学電子映像事業部 商品企画グループ  
上野 隆

フィルム写真時代、プロ写真家やアドバンスドアマチュアが当然の様に使用していた中判カメラ。35mmカメラが機動力を活かしたスポーツ写真、報道写真、スナップ写真などで有用だったのに対し、中判カメラは細部まで緻密な描写性能、豊かな階調再現などが特徴で、コマーシャル、ファッション、スタジオポートレート、そして風景写真などでその威力を発揮していた。その「中判」ならではの超高画質を「デジタル時代においても誰もが手軽に味わえる様に」と、富士フイルムが開発したのが新システムの「GFX」。既存の中判デジタルカメラにとって避けられない問題だった「大きい、重い、高価」という三つのハードルをGFXは如何にクリアしたのか？世界の写真家達はGFXに何を期待し、何を感じたのか？を、商品企画者がリアルに語ります。

10:55~11:40 「DC-GH5におけるソフトウェア技術」

パナソニック(株) アプライアンス社 イメージングネットワーク事業部 ソフト設計部  
鈴木 悠一

新世代のVENUSエンジン(ASIC)を初めて搭載したLUMIXのフラグシップ機であるDC-GH5は、マイクロフォーサーズの特徴である小型・軽量ボディを維持しながら、4k60p記録や4:2:2 10bitの4k30p記録を記録時間無制限で実現した世界初のミラーレス一眼カメラである。その特徴は動画にとどまらず、静止画においても業界最速クラスの0.05秒AFやタイムラグ0.01秒の低遅延ライブビュー表示など、精度と速度を両立しなければならない開発項目が多く存在した。今回の講演では、DC-GH5のこれら特徴的な機能のソフトウェアに関する内容にフォーカスし、ASICの能力を余すところなく発揮させる当社ならではのソフトウェア技術を紹介する。

11:50~12:35 「三次元的ハイファイ 3DHiFi とボケ味~AF-S 105mm f/1.4E EDの開発」

(株)ニコン 光学本部 シナジー推進部 基盤技術開発課  
佐藤 治夫

ボケ味に対する考察、ボケ味の定義、ボケの発生メカニズムの説明。三次元の被写体を写真と言う二次元のフィールドに、より自然で心地良い、心理的に忠実性の高い画像として再現するという設計思想「三次元的ハイファイ 3DHiFi」とボケ味の関係について、幻の100mmF1.4設計を経て開発されたAF-S NIKKOR 105mmf/1.4E EDの開発秘話と合わせて解説する。

## 【セッションⅡ．映像表現技術と出力技術】

13:30～14:15 「4K一眼ムービーカメラ選びのためのチェック項目」

株式会社 Lab  
鹿野 宏

各社から出揃った 4K 対応一眼カメラ。一口に 4K 対応と言っても、60P で撮影できるもの、35mm フルサイズで撮影できるもの、AF が速いものなど、様々な個性のカメラが揃っています。そこで今回は 4K 動画機能を持つカメラに機種を絞り、動画撮影に有効な機能、今トレンドと思われる機能を中心に一眼レフを使用しているカメラマンが欲しい機能、シーン別に欲しい機能、動画としての基礎力をさぐります。

14:25～15:10 「COMET プレミアムライティングの真髄」

(有) 写真の川地  
川地 清広

証明写真タイプのスクールフォトから脱皮しスタジオポートレート風の写真を個人写真ページへ！！プレミアムポートレートを撮影するにあたり、重要なストロボライティングを機動性の良いワイヤレス調光が可能な COMET バッテリーストロボを使用し実技を交えながら光量や角度等を詳しく説明致します。また、撮影背景のポイントや画角・構図で迷った時に解決するポイント・カメラの設定内容についても詳しく説明致します。

15:20～16:05 「インスタント写真（チェキ）の技術」

富士フイルム（株） イメージング事業部  
藤井 武  
富士フイルム（株） 神奈川工場イメージング材料生産部  
鈴木 信弘

インスタントカメラ（チェキ）は 1998 年の発売以来累積出荷台数が 2,500 万台以上となり、2015 年には 500 万台以上を販売しています。今回講演では、チェキビジネスの今に至る経緯を簡単に紹介し、カメラの画像露光技術と、フィルムにおける発色の仕組みや盛り込まれている高精細画像形成技術について説明します。チェキフィルムは、1 枚のフィルムユニットの中に感光材料、受像材料、処理液が組み込まれ、撮影後すぐにプリントが得られる、究極の写真材料です。明るい光のもとでも、小さなユニット中で現像が行われ、さまざまな環境で同じようなポジ像が得られるメカニズムで出来ています。

16:15～17:00 「オンリーワンの世界観のための撮影コンセプト別機材選びの極意」

写真家  
相原 正明

自分の作品を制作する場合、必ず撮影コンセプトを決め、作品表現に一番ふさわしい機材を選択します。今回はその 5 つのコンセプトをご覧ください。 1. フィルムからの流れを生かした色彩の風景写真を FUJIFILM X シリーズで撮影 2. FUJIFILM X シリーズ電子無音シャッターで撮る落語の世界 3. Nikon D5 等の超高感度&ハイスpek AF で撮る、夜の鉄道の世界 4. Nikon D800E&Carl Zeiss Otus シリーズを使い超高画質で撮るモノクロームで物の形の美しさを表現する 5. FUJIFILM GFX 50S パノラマ写真を縦使いにして、風景を撮り掛け軸風にして「和」の世界を表現する 以上 5 つのカテゴリーで講演させていただく予定です。

\* テーマ及び講師については、予告なく変更する場合がございます。あらかじめご理解願います。

### 【問合せ先】

〒164-8678 東京都中野区本町 2-9-5 東京工芸大学内 日本写真学会事務局

E-mail: [spstj@pht.t-kougei.ac.jp](mailto:spstj@pht.t-kougei.ac.jp) Tel: 03-3373-0724 Fax: 03-3299-5887

〒106-0031 東京都港区西麻布 2-26-30 富士フイルム西麻布ビル 1 号館 写真感光材料工業会

E-mail: [kanzai.aoki@mbr.nifty.com](mailto:kanzai.aoki@mbr.nifty.com) Tel 03-6419-7241 Fax 03-6419-7264